

第10講 福祉国家

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 生活保障と家族との関係を、日本社会の変動の中に位置づけて理解する

1 福祉国家 (welfare state) の形成

ひとりで生きていけない人の生活を誰が保障するかという問題。→ 旧来の共同体 (家族や地域) か、政府か、市場か?

1.1 20 世紀の世界における重要な変化

- 第1次世界大戦 (1914–1918) とロシア革命 (1917)
- 世界大恐慌 (1929) とアメリカのニューディール政策 (1933–1939)
- ファシズムと第2次世界大戦 (1939–1945)

歴史的経験を通じて経済における国家の役割が増大し、「混合経済」と呼ばれる経済体制が確立する (Samuelson, 1974)。

20 世紀後半には多くの国で医療保険・年金制度が整備される → 基本的人権としての「社会権」と、国家の責任としての「福祉」

福祉国家 (welfare state): 市民の幸福な状態すなわち「福祉」(welfare) の実現に一定の責任を負う国家。「一定の責任」の範囲として、平均的な市民が生活困難に陥ることを防ぐ「防貧」と、生活が困難な人を援助する「救貧」が想定される (武川 2017)。

社会保障 (social security): 社会保険と公的扶助 (次回) によって防貧と救貧を実現する仕組み

実際には、社会保険と公的扶助だけでは用が足りないので、ほかのさまざまな制度を総合して、全体として生活困難に対応する仕組みが成り立っている。そのような諸制度をふくめ、ある社会において救貧・防貧の機能を果たす仕組みの全体を、「生活保障システム」と呼ぶ (大沢 2007)。

福祉国家は、しばしば「修正資本主義」と呼ばれる国家体制の一種である。

- 対：自由放任型資本主義 (夜警国家)
- 対：社会主義
- 対：「戦争国家」(warfare state)

1.2 日本の場合

- 生存権 (憲法 25 条) の確立、生活保護制度 (1940 年代)
- 社会保険制度の確立 (1960 年代)
- 「高齢化」の社会問題化
- 「福祉元年」: 1973 年
- 福祉国家論の衰退: 1980 年代「日本型福祉社会」論 → 家族による扶養の強調
- 「少子化」の社会問題化 (1992 年以降)
- 介護保険制度 (2000 年)

文献

Esping-Andersen, G. (2001) 『福祉資本主義の三つの世界』 (岡沢憲芙・宮本太郎訳) ミネルヴァ書房.

Samuelson, P. A. (1974) 『経済学』 (都留重人訳; 原書第 9 版) 岩波書店.

大沢真理 (2007) 『現代日本の生活保障システム: 座標とゆくえ』 岩波書店.

武川正吾 (2017) 「福祉国家」日本社会学会 『社会学理論応用事典』 丸善.

田中重人 (2022) 「家族の変化と生活保障システム」伴野文亮・茂木謙之介 (編) 『日本学の教科書』文学通信 (pp. 177–198).

富永健一 (2001) 『社会変動の中の福祉国家: 家族の失敗と国家の新しい機能』 (中公新書) 中央公論新社.